



香雪堂四才菊



如

香雪堂四才菊

特別
9
3908
4



門 9  
3908  
卷 4

真盛四方菊卷之四



① 主懐工高をれくよ分てはむか醫老のたーるこ

仕合の終中るハ三人の組中えの四祝委お

秘法生方の画く申金(ゆ)られて療治成も廣ふい

まされる節。才一の心ゆよぬる有。引只今の下ふてる

とちらひまをせふ可病を治せんと思んよりハ。一病も妙術を

ゆよともやるれハ。醫術のゆよす此時ハ世をむさぐ馬。人

成虚信よふ山ころーふ。まりともむるふてもありてのけらむぞ

是とせよのほりよ護て。アんとよまう。ハ武家方ハまきと

云内。か馬さころあて。一命を。ま君ふさう。よて。ま職分を。勤ら

三尾州古書

昭和二十八年三月十日

る。百姓の野業成いとあるん若かんんしてまきくく又  
穀とみのせにうこ職人なれくの細工お成作して人の酒  
法とあり。各人の細工お代き代り格別の乃具と成  
辨成細工おわくを安きあ刃方からさきまでも調成て  
る成るんず。商人ハそれくめいくの實成成れまの業  
て法人の用と見じむ。士法工高格と代お成のおとを替て  
法人と成法さるる。お遠はし醫者の業ハ良時ハま他  
のの言大あるらや中はしななくある時ハ山崎川す  
虚成り実中たれぬ所有て。定めがら成業るればた四  
ある醫者と素人までが海世よすりやうふ成をたとえてい

法職人の細工はようは。お成成る代はたれが細工お  
てあるあ。たれがはしハある細工かれハ中細工け代お大坂  
がよいはハ東がよいのと代格格くよ定はり後仲代を  
畫と格々のカ一画はして見する。書家ハ家々の流さ  
成者ハ一守まか。汎停ありさみの指も格々言の  
祝成九種くさつとある。是ハ何人の業はハ何人の業  
と。寛有醫の病と治する。げ病もハ何きの醫者お  
け。は。さ。めて。極善極ぬ病とやとさうと。たれは。口を  
てもあるぬ。是ハ何世のお醫者か。又から々と。生死の二  
が定まりて全收する。時ハび人の療治でまけ補はるる

わくちうりぐ束く。ほくたー。ききず。きあの法（ねが下東  
菘の下れ。ろご。やの裏信を。ほき。はく。い。て。自。業  
若きけて。ある。醫。老。の。も。扱。り。て。扱。も。扱。ふ。も。功。の。老。い。や。  
な。よ。是。し。や。き。あ。う。き。あ。の。根。を。ほ。さ。た。か。ー。き。あ。ぐ。業。の  
眼。を。た。ど。ち。う。手。わ。り。さ。め。ど。ろ。ろ。う。上。細。工。の。亦。で。何。ゆ。い。中。細。工  
次。細。工。の。職。か。ぐ。育。や。ま。れ。い。で。膚。醫。の。た。め。よ。能。て。も。ど  
こ。も。ほ。き。う。ぬ。方。が。有。も。虚。を。見。あ。ん。で。き。く。風。流。を。療  
治。人。も。あ。ず。る。あ。ん。延。享。年。中。の。比。上。京。小。麻。又。田。按。坐  
い。あ。て。大。人。小。児。の。き。ず。り。と。趣。あ。せ。ー。人。に。り。ぐ。え。い。あ。ま  
ぐ。こ。より。ふ。は。合。ふ。て。平。天。の。年。也。り。男。少。し。の。用。を。治

一。そ。川。東。の。小。庄。を。信。り。何。を。ほ。せ。よ。せん。と。の。ま。ま。さ。う。ー。て  
後。氣。發。せ。し。が。葉。を。用。き。た。が。ー。の。貯。候。く。落。く。あ。る  
小。も。と。い。こ。め。百。々。解。り。の。張。葉。何。の。葉。に。見。ず。今。今。葉  
葉。と。い。て。葉。昨。は。名。き。る。妙。の。道。に。れ。こ。四。り。張。成  
き。ず。り。て。り。い。ー。が。も。あ。て。す。る。う。よ。全。收。志。り。痰。積。の。や  
ま。い。痛。れ。れ。ど。柳。の。貯。候。も。あ。て。せん。こ。る。さ。ま。よ。凡  
さ。い。身。ー。は。び。な。療。治。を。請。ー。妙。の。の。き。ず。り。定。て。秘  
に。傳。り。あ。ん。ま。秘。り。い。あ。う。ね。ど。こ。四。り。あ。り。し。時。張。後  
是。ー。也。被。妙。の。う。こ。あ。て。さ。ま。り。と。始。が。ー。の。と。か。り  
り。あ。て。法。人。の。療。治。を。す。る。あ。ん。は。せ。よ。扱。は。死。あ。ふ。て。も。あ



それぞ  
ゆきゆき  
よのよの  
さしり

これハ  
りて  
よ



けさ  
こまり  
して

ちう  
さしり  
よ

らん  
つて  
あ

一。是よりききし存立と一人勇収い面屋の厚くして  
下系意いふ事友達有るんげはしをゆりうげに厚と  
は男万飲也の能面のかこの厚男高貴の面細工とま  
ぶかり。きよどめれがであと板板きると。くげに居る室中  
それへいごんより一から。美くすの工丈はに厚くまうこれよ  
とて先趣向をきかせると。上系よま國舟の信風とじて。を  
と判ぬ友とせ。丈人小四さすまの名人と云老じて居る  
当分ハあちの女房も。ご人の子供も。病人よりしてさすり  
り中り。板鳴り里の祖丈祖母孫子依も。毎日療治よりハ  
也。玄園およハせうこ兼履の千ハ六足づくとおかし味を

終ぬ板して。何程治持の亦く如くで運よ来ても。外へ療  
治ハあられぬ。門へ来る病人をうでハ療治あられぬと。を  
取ハ評判をきいて始うけると一月三月小ハおよぬ。取も  
受けハ二りより。人もよ々と入持敷祈はちうぬ。是を  
ま自のままいにて中らぶ。能と思を芝居の乃五のまねは  
るる。彼男様もよおし。是ハ面白く趣向げ交のさひを  
ハまねを席うく切まで化して。一盃にても積ぶが名  
も何と身よとさう時。面厚が子系よ身く。磨更回按出  
音なるハ厚ハがふんの中。お意のふり思する。古たぐ  
及ぐは趣向の中るくありて。多く上系よ玄園舟の

家を借り。古の具屋の代わで。療治場むじう丸つく  
 ろね。延候を飲込ご下男一人をて。正月の元日から療  
 治を初る。毎日厚八う方より。女子子位の療治人  
 と仕あがりてあしうけると。彼男判髪志て衣指を改  
 さもあさるいげよ。指をえらる。ぐ小玉の人どや。さすり  
 の名人とやと。子二町二町をふでの。誠の病人肝積  
 持や短毛虫の摺りこちと。口も人も。髪も指も。衣と厚  
 八いよく急はが小糸。ま白ままい丸の人。被織着て療  
 治人の約て。看るふ一なり。私ハ和泉屋六き。忠も代まで  
 四時ります。何首の。か親少て。主人もくの大病を獲

仕、有るふ存ます。是ハすん一のか。礼と。髪を川と。云云  
 酒一掃よ。今式而。走包中ハ。何うも。ずき。あすと。又  
 ねませふ。下男う。玄園あへ。ありと。大キ子。髪で。指やの。髪  
 か。えん。じ。し。びる。より。如。三。将。出。若。方。は。り。か。か  
 げ。ま。て。目。く。よ。う。く。何。種。う。大。収。小。存。ます。ね。け。上。海  
 西。靴。上。ます。す。び。不。ハ。怪。儼。下。あ。な。り。ます。れ。ど。高。分。礼  
 の。中。と。い。つ。て。生。綱。一。尾。上。蛇。の。尾。り。あ。る。を。こ。ら。海。て  
 持。せ。海。る。面。字。う。教。め。お。り。少。生。祇。堂。の。兼。店。を。ど  
 して。按。出。ぐ。さ。す。りの。評。判。と。して。女。房。小。八。月。く。東。三。系  
 親。音。め。ぐ。り。あ。ど。と。さ。せ。及。ば。れ。と。も。つ。けて。評。判。と。さ。せ

多<sup>ぶ</sup>。二月三月するとつあよハ<sup>か</sup>の<sup>み</sup>丁も<sup>あ</sup>て<sup>は</sup>の<sup>療</sup>治<sup>人</sup>  
初<sup>は</sup>つ<sup>善</sup>と<sup>づ</sup>め<sup>か</sup>ら<sup>る</sup>多<sup>く</sup>救<sup>す</sup>十<sup>人</sup>有<sup>じ</sup>が<sup>仲</sup>京<sup>の</sup>傷<sup>寒</sup>  
神<sup>は</sup>ま<sup>れ</sup>る。自<sup>ら</sup>陰<sup>陽</sup>和<sup>し</sup>て<sup>瘡</sup>と<sup>て</sup>茶<sup>代</sup>飲<sup>す</sup>不<sup>捨</sup>  
て<sup>を</sup>も<sup>。四</sup>教<sup>と</sup>茶<sup>と</sup>して<sup>瘡</sup>病<sup>を</sup>有<sup>。こ</sup>ら<sup>ハ</sup>下<sup>を</sup>  
を<sup>醫</sup>者<sup>よ</sup>か<sup>る</sup>ら<sup>し</sup>り<sup>ハ</sup>茶<sup>代</sup>飲<sup>す</sup>よ<sup>居</sup>る<sup>が</sup>終<sup>乃</sup>も<sup>不</sup>  
て<sup>茶</sup>せ<sup>ら</sup>る<sup>中</sup>醫<sup>と</sup>つ<sup>つ</sup>と<sup>古</sup>記<sup>し</sup>こ<sup>も</sup>有<sup>し</sup>文<sup>を</sup>  
男<sup>女</sup>を<sup>不</sup>移<sup>し</sup>氣<sup>病</sup>に<sup>け</sup>て<sup>行</sup>換<sup>持</sup>ハ<sup>ま</sup>身<sup>氣</sup>を<sup>不</sup>  
傳<sup>へ</sup>去<sup>る</sup>お<sup>し</sup>ち<sup>よ</sup>く<sup>し</sup>く<sup>。是</sup>ハ<sup>よ</sup>じ<sup>か</sup>ら<sup>ふ</sup>と<sup>ふ</sup>  
る<sup>ハ</sup>。生<sup>ま</sup>う<sup>れ</sup>く<sup>。悪</sup>し<sup>た</sup>と<sup>あ</sup>ふ<sup>る</sup>ハ<sup>め</sup>つ<sup>し</sup>ら<sup>る</sup>  
こ<sup>こ</sup>を<sup>笑</sup>る<sup>。あ</sup>世<sup>を</sup>知<sup>り</sup>お<sup>し</sup>て<sup>評</sup>判<sup>の</sup>終<sup>す</sup>り

と<sup>皮</sup>と<sup>。療</sup>治<sup>後</sup>ぬ<sup>あ</sup>玄<sup>関</sup>の<sup>ゆ</sup>て<sup>居</sup>る<sup>因</sup>に<sup>少</sup>終<sup>る</sup>も  
か<sup>さ</sup>ま<sup>り</sup>。按<sup>出</sup>の<sup>も</sup>が<sup>獲</sup>へ<sup>さ</sup>る<sup>と</sup>す<sup>。亦</sup>氣<sup>が</sup>よ<sup>ま</sup>ぬ<sup>こ</sup>  
る<sup>程</sup>まで<sup>。按</sup>と<sup>く</sup>と<sup>い</sup>て<sup>吾</sup>も<sup>尚</sup>分<sup>ハ</sup>下<sup>わ</sup>ゆ<sup>く</sup>  
是<sup>ハ</sup>名<sup>さ</sup>す<sup>り</sup>と<sup>感</sup>と<sup>感</sup>する<sup>者</sup>る<sup>く</sup>多<sup>し</sup>。調<sup>子</sup>  
系<sup>按</sup>法<sup>病</sup>人<sup>の</sup>後<sup>茶</sup>を<sup>い</sup>せ<sup>て</sup>。療<sup>治</sup>を<sup>し</sup>ら<sup>る</sup>が<sup>。四</sup>  
は<sup>氣</sup>を<sup>あ</sup>じ<sup>の</sup>さ<sup>す</sup>り<sup>代</sup>と<sup>る</sup>で<sup>也</sup>。正<sup>月</sup>に<sup>日</sup>く<sup>初</sup>と<sup>く</sup>  
七月<sup>十</sup>日<sup>を</sup>了<sup>す</sup>。七<sup>日</sup>を<sup>あ</sup>ら<sup>と</sup>し<sup>て</sup>張<sup>代</sup>収<sup>納</sup>し<sup>て</sup>日<sup>一</sup>  
は<sup>面</sup>厚<sup>も</sup>古<sup>道</sup>具<sup>屋</sup>の<sup>徳</sup>を<sup>求</sup>も<sup>。按</sup>出<sup>宅</sup>へ<sup>打</sup>寄<sup>て</sup>書<sup>を</sup>  
定<sup>せ</sup>せ<sup>し</sup>。亦<sup>が</sup>。人<sup>是</sup>法<sup>雜</sup>用<sup>何</sup>の<sup>え</sup>入<sup>を</sup>を<sup>。其</sup>中<sup>受</sup>  
先<sup>引</sup>終<sup>り</sup>治<sup>す</sup>其<sup>ら</sup>を<sup>人</sup>として<sup>。其</sup>中<sup>受</sup>と<sup>い</sup>



さして安用事合の悦酒。十九日より療治をせしめ  
仍ち月まで小。今季子の百五つても日ける後りあて  
打して樂とらる。揚出持病の痰拵灸二三日ふら  
が。能成し下で痰のこきとんて。眩の上額ひたいの角ふむく  
ろ。し程な痛が来らる。か。赤あかと有て痛し。八月  
旬と療治を体。よく養生すれど。ちくく大きう成  
板子して。いつ瘡かさをふ成。し。さ。さ。す。面厚も徳来もさ  
とつてと。さう小痛ついの急す。痛は。んとと。れど。今こ  
ぶ。う。圓えん栗りは。ちりて。眩め之。ち。ち。は。後のち是。早。中。引入  
居る。か。療治の評判も。す。だ。何。ぐん。柏子。ぬ。せ。

を。按。お。も。も。成。り。こ。び。痰。癆。ハ。何。程。は。く。大。き。う。る。ろ。う  
も。あ。れ。ず。療。治。も。す。る。才。が。面。神。よ。痛。を。で。り。て。け。ち。を。さ  
す。神。よ。人。目。み。は。し。き。眩。ち。ん。お。と。や。い。こ。ん。才。一。ふ。れ。合。あ  
お。と。云。是。を。苦。し。て。療。治。よ。い。さ。む。ら。う。人。目。を。恥。て。は  
柏子ぬけせし時。厚八は。是。成。苦。ま。さ。せ。ぬ。二。つ。の。ユ。ま。ご。を  
ま。痛。ハ。は。く。大。き。う。成。後。ハ。自。は。り。程。も。成。と。い。は。れ  
よ。それと。我。を。ぬ。せ。し。按。出。の。き。す。り。ハ。妙。有。答。あ。り。目  
本。の。神。く。一。程。を。あ。我。さ。す。り。よ。て。法。人。の。難。病。を。助  
け。る。一。人。も。僕。ら。る。病。よ。神。カ。を。流。さ。び。あ。い。こ。の。か。ら。に。我  
が。頭。ハ。大。き。う。痛。を。身。て。面。神。ハ。苦。ま。は。め。と。い。ふ。

龜を立見有妙もるれども。程く儲をんせんこめ  
人の病を治すはとまらふ。按おハ病を好て法人を救る  
それ為療治のまきよつけて。候く病がたまらぬとてせ  
らんふれんと云は。是を按出も死なぬに又療治を初  
るる病の評判を法人をよめます。其の醫品厚ハハ  
口説より。身を早く按出ぐ大程。病を感通はしくて。此  
より額より。一の病出。口く療治繋業して。病人全快  
なる。よちくくと。病のたまらぬおぼやうと。東洛中ひ  
らう。はふさせし。は。実を利教。其の面のか。厚。面。厚の細工  
と。や。お。先。名。あ。う。少。て。夕。飯。を。あ。さ。め。ら。れ。ば。後。の。ゆ。と。

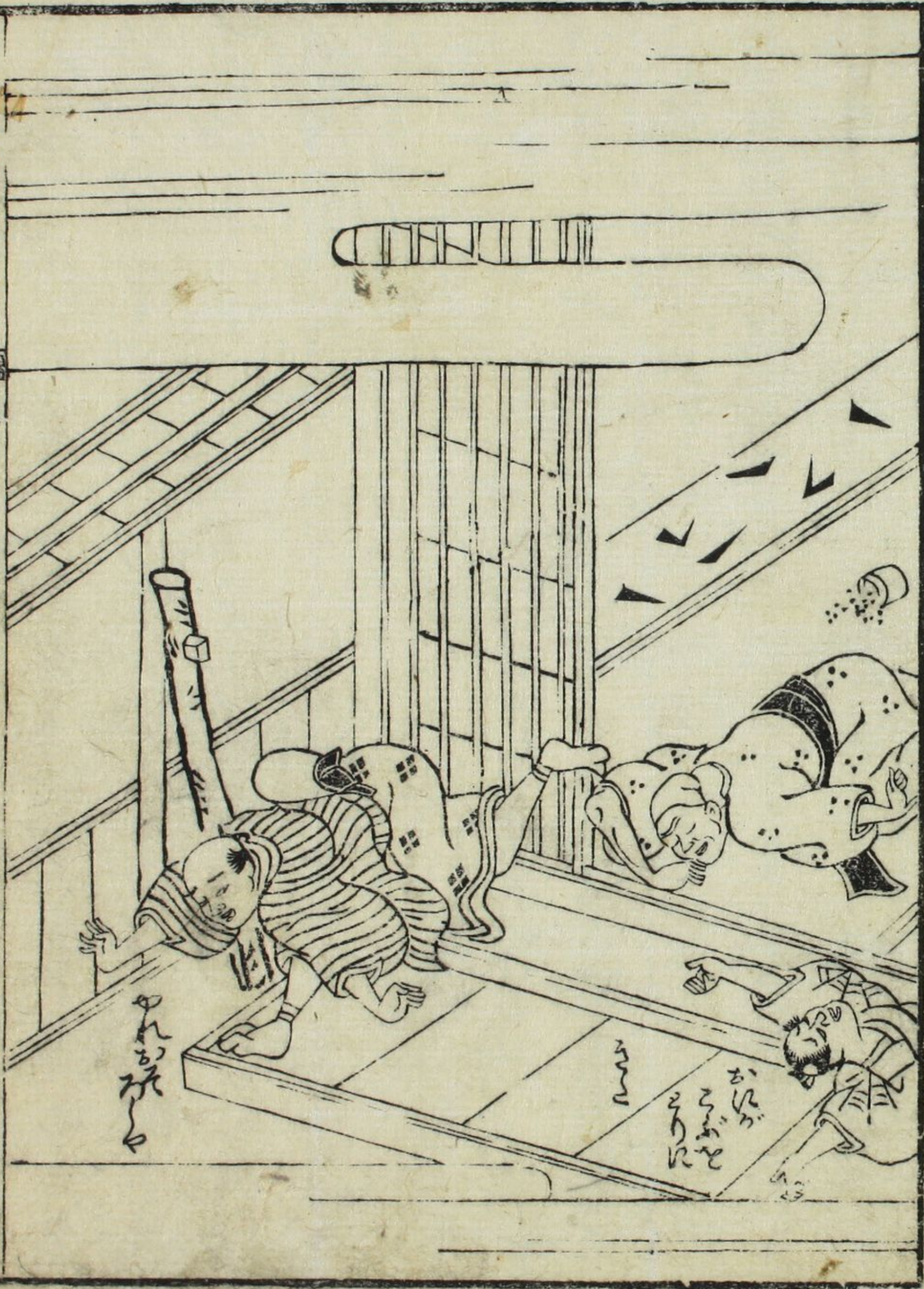
禁も獲を定まよし。て。か。う。お。さ。を。せ。り。ま。せ。り。ア。ハ。ハ。  
② 仁と神カ小まををせと。眼のうの福をお  
降リ 頸元の敷めハ面新の小刀細工。或入る  
席切のあんこん  
扱其その積を。ア。ま。せ。り。法。生。元。と。せ。及。れ。一。屋。小。松。の。口  
大臣重盛ハ。神。よ。祈。て。命。を。ち。め。ら。れ。し。も。父。清。盛。の  
急。送。を。誅。ん。こ。め。見。才。八。人。有。末。の。男。子。が。兄。の。難。病  
よ。か。ら。ん。と。て。天。よ。祈。地。よ。あ。し。ハ。屋。土。も。有。た。め。し  
按出を。が。面。新。小。病。を。ま。せ。ん。り。を。祈。法。人。の。病。苦。を。助  
ふ。との。け。り。ハ。殊。務。小。も。た。の。世。代。の。名。守。り。額。よ

たらしまら痛がなきて。かーづでも大まきうぬが眼をあしだ  
の寄はあとしめて。洛中洛介ハア及バす。を在を在か  
もせし。按出二人の療用されば。ももことくくま  
らざる。九次。女ふふら。一。此病ハかく日よ療治を  
指と定て。小四の。かハ。おら。より。九ツ時。女中ハ九ツ  
七ツ時。男の。かハ。善。つ。より。四ツ時。と。す。身。を。ま。し。て  
人。と。ら。ま。ふ。道。ハ。と。し。ま。ぬ。按出の痛い。よく。ち。く。く。え  
あり。よ。成て。む。む。く。ろ。の。天。固。栗。介。ど。小。成。を。ま。は。ら  
大。く。こと。又。條。移。ま。り。る。る。び。る。九。日。救。百。日。解。り。痛  
の大。あり。よ。放。小。あ。さ。が。い。法人。感。ん。して。三。病。を。い。去。

ま。で。う。痛。ん。物。の。こ。め。獲。と。ま。す。り。り。ふ。て。ゆ。る。位。さ。う。く。と  
瘡。ぬ。獲。持。ハ。こ。ぞ。で。い。ま。る。と。と。氣。を。ふ。ま。り。と。む。む。を。ど  
痛。の。数。而。改。初。て。より。日月。あり。ま。て。全。百。あ。汁。の。収。細  
お。何。き。も。飲。切。の。ま。い。を。う。ご。ぶ。ど。け。痛。が。も。ま。り。か。ど。よ  
あ。る。ハ。京。中。の。あ。ま。を。ま。つ。る。ま。や。と。せ。さ。人。を。掌  
八。法。ま。ま。を。う。ら。して。候。く。極。月。の。十。日。以。より。そ。う。く。痛。が  
中。ま。ま。ま。り。候。く。よ。か。さ。び。く。よ。成。て。痛。る。極。子。是。ハ。氣。の  
毒。を。今。う。で。痛。が。る。と。お。け。也。張。を。れ。ふ。が。す。と。い  
神。法。も。虚。ふ。成。て。法人。の。疑。を。う。ら。る。と。何。と。も。能。く。あ。ん  
有。ま。い。つ。と。法。を。求。按。出。も。首。か。こ。む。け。し。が。而。厚。が。又。あ。ぬ

是ハ後上この分別べつべつが有。あくるを葉面細工かめんこぎの職しやくなれ  
本もとの面おもてでも。紙しむらの面おもてでも。敷すままいいぐぐけけ一いっ匹びつの上うへ細工こぎ  
痛いたがるあぐあぐばままくく目めかか一いっ指さし老らうが細工こぎで痛いたを紙しむら  
少すくてじじらら按出あしだ老らうの脂あぶらの上うへよよつつ身み。低ひくく大だいききううして  
後のちの焼やきの葉は見み種しゆとよよああてて見みせるると葉肉はくにくを人肌ひとがみの  
ああんんどどいいままの痛いたふふんんせせううけけるる。面おもて細工こぎの葉はつつははの療治りやうぢ  
端はたと介すゐああるる時ときとハ痛いたを身みを金かね夜よ寝ねるる時ときや人ひとよよををぬぬ  
肘ひじハ痛いたをぶぶららしてして金かねがよよいと云いははばば法はふきき出で我がありりてううををつ  
くと。按出あしだハけけうう人ももないい候けい。後のちの痛いたハををありり。山やませせ痛いたでで指さしも  
ややけけるとハ面おもて厚あつふふとああのの玉たまの糸いと意い着ちやくめめ文殊もんじゆの厚あつハ

めとそりりかかれればば被ひててははよよせせううと法はふきき出でががももととささり  
青あおのふふーーらら下した男おとこッッ傷きず危あやししけけああすす。虎こ門かどの鼻はなとと衣え縫ぬい  
よよ厚あつハハ。細こ工こぎせせ一いっそそ又また併ひらりり。又またガガ一いっ大だいありりをを瘻ろう痛いた  
按出あしだののかかささむむくくままららしし。痛いたの上うへををつつららりり着きせせ地ぢををら  
くくいいでで身みををららるるももこことと。ととんんとと細こ工こぎの痛いたとと見みくく一いっハハ  
里さと。ハハ厚あつハハ。生なま傳でん定ぢやう用よう老らう小せうてて。鼻はなののけけここるる人ひとよよここりりかかここの  
鼻はなとと細こ工こぎ一いっしてして突つ男おとこ。扱あわわ小せうハハ。ああららちちりりととてて。是こゝ種しゆ然ぜん  
小せ一いっ痛いたるるれれどど。按出あしだ療治りやうぢ場ぢやう小せうてもも。頭かぶがが定ぢやうるるととてて  
頭かぶ中ちゆうをを。痛いたるるをを分ぶんけけててううすすここいいよよくく目めくくよよ盤ばん島しま。細工こぎ  
業わざのの自みづか由よしハハ。目めくく痛いたをを大だいききししてて見みするるとと。まますすンン。法はふ



おれおれ

おれおれ  
おれおれ  
おれおれ



おれおれ  
おれおれ  
おれおれ

おれおれ

おれおれ

人か肝とつば。めらるの九月とよ。痛とよまる。種ふふるが  
結ハ三拾貫目種りふけ。今ハ按出えん。氣も筆引一ハ  
療治も目ふ七八人種。よかきり。女房でも持てをを樂ふ  
移り。表向で。あるのあらぬ。げ似痛とせるも。そ尾結ご  
かど仕。種と身。交ふの。の。苦。つ。こ。げ。比。是。で。を。こ。い  
ためーが。又。厚ハ。發。め。そ。し。よ。も。術。有。仕。後。を。よ。く。出。て  
ん。せ。や。え。と。依。を。丈。の。鼻。く。は。は。り。ふ。風。呂。交。包。り  
え。お。せ。物。成。ん。れ。ば。敷。一。す。つ。が。里。か。ぶ。る。赤。鬼。の。面。懸。え  
も。是。ま。で。も。包。ま。う。す。鬼。の。お。束。る。り。そ。し。が。ご。ふ。成。と  
法。業。ふ。一。た。と。う。て。ば。是。と。か。あ。り。是。と。若。て。我。思。の

姿とる。姿ハ男斗療治よる。按出をを初。我。定。に  
療治場。出。て。表。ま。あ。と。人。と。言。ふ。人。も。ゆ。せ。お。さ。目。然。と  
ん。せ。う。け。て。ご。り。火。を。か。す。う。じ。て。室。口。より。る。の。襖。成  
候。ご。り。く。あ。ら。せ。て。我。業。を。う。て。玄。國。の。介。か。え。ハ  
い。ふ。按。出。結。さ。う。れ。ま。方。の。見。一。さ。き。り。上。の。之。と。種  
法。人。子。切。と。ら。じ。病。苦。と。救。ん。大。教。小。て。法。神。を。祈。り。我  
身。小。ハ。大。さ。る。痛。と。乞。法。ふ。が。も。る。姿。も。法。人。の。祈。神。も  
の。身。と。又。切。ま。る。仁。ん。と。法。神。感。通。あり。夜。汝。が。痛。我  
た。て。ほ。さ。せん。我。ハ。神。の。は。世。む。つ。り。と。よ。赤。鬼。成。と

鬼は痛をむくみくると。古きたえと今あてては。首りと大  
 音小云てから。玄国の隙子一投をせり。つくと入て按せき  
 の。わくまをたのもで押志のよふて彼痛をむつ松と又  
 玄国へけかて。男秘金一ふそくとをある。裏口へ強さる  
 う。それハま場のその尾ひきとといハ二人ハ撲身を打ての  
 感ふ。お後教習うとのする。厚八も徳を忠もま夜  
 ハ按上り小ゆりて。聖日いつものを言と。小思九つより  
 古の玄女中の療治。善とこの門はて厚八鬼の姿とあり  
 ての。熱替古。善とつより。はめうける。男の療治人と初  
 敬まをゆせ。表す財をよむ人。巧存。時刻じと。襖を

徳を忠もま夜。ゆりくうこうせハ療治人。忠もま夜。悪く。嚴小ハき  
 うそり。比。表ハ。家ハ。ゆ。ず。の。う。さ。と。い。ハ。門。厚。八。件。の  
 文。句。れ。お。も。ろ。く。や。は。ま。ま。と。い。て。ま。ず。り。を。更。て。善。存。を  
 し。華。と。記。す。ろ。起。上。る。亦。一。鬼。の。姿。ま。て。飛。上。云。合。せ。の。を  
 似。痛。を。引。搥。で。我。も。ハ。神。の。仗。む。ら。り。と。い。ハ。鬼。を。る。ぞ  
 痛。ハ。忠。の。ま。ま。ゆ。の。さ。よ。お。の。海。さ。り。ま。と。い。て。是。柳。子。ハ。つ  
 ふ。玄。国。の。介。一。飛。か。し。ぐ。又。人。の。中。三。人。ハ。む。つ。し。て。志  
 む。一。氣。と。な。り。し。と。る。勢。り。二。人。ハ。あ。る。ひ。く。痛。を。鬼。を。松  
 て。ゆ。く。た。憐。れ。見。屋。あ。又。是。が。世。上。の。評。判。さ。る。ま。り。誠  
 の。痛。ハ。あ。る。ま。り。癒。て。も。似。痛。を。身。て。介。一。あ。る。若。を。取。り

世傳はふ。多く療治も不難易にありしが。一花はつるも量  
てのかく。接出ハ後鉛をかゝる。如房拵ておぼしき言  
方ハ鉛の口おちる程も八角の燃道リ。水でハゆきぬ  
り。扱もけ一席ハもて者。もつたまをふ先耳を休られ  
まを

真盛四方菊卷之四終



山本